

●漁況情報

- 相模湾側のヒジキは生育が遅れていたため、長井町漁協では5月17日、横須賀市大楠漁協では佐島・芦名地区は5月1日に解禁日を遅らせた所、前年と比べて収量も良かったそうです。
- 5月中旬から6月にかけて、西湘地域の各浜でマアジが豊漁となっております。例年より獲れ始めが遅かったものの、連日まとまった漁が見られました。小田原では、プライドフィッシュ「小田原のアジ」として登録されており、地元のスーパーや鮮魚店などで販売され、人気を集めています。

●浜の話題

- 5月2日、小田原市漁協青年部は、アカモク養殖試験に向け種取りを開始しました。幼胚の活着を期待し、自生している母藻近くにロープを張りました。幼胚のついたロープは水温が下がるまで保管し、冬頃から養殖試験を開始する予定です。



種取り用のロープを設置している様子

- 5月4日、横浜市漁協柴支所では昨年12月から金沢区白帆の沖合で行っていた、アカモクの養殖試験を終了しました。試験開始時は10cmほどの種苗が、終了時にはほとんどが2m以上に生長していました。近年、県下のアカモクの天然資源は著しく減少しています。今後、アカモクが量産規模で養殖されるようになれば、安定的な生産が期待できます。また、今回、生産したアカモクの一部を、次年度の種苗の母藻として活用させていただくために水産技術センターに搬入しました。当センターの栽培推進部ではこれらから種を採取し、種苗を得ることができました。



収穫されたアカモクと育成中の種苗の様子

- 5月10日、鎌倉漁協では、天然の湯がきわかめを、市内の小中学校に提供しました。この取組みは10年前より続いており、かながわブランド品にも認定されている鎌倉の湯がきわかめはサラダや定番の味噌汁等で、学校給食メニューとして提供され、学童にも「市販のわかめとは違って歯応えがあってとてもおいしい！」好評だったそうです。

- 5月17日、葉山町漁協所属漁業者は、(公財)相模湾水産振興事業団の支援を受けて、ヒラメ種苗を放流しました。当日は(公財)神奈川県栽培漁業協会より購入したヒラメ種苗5000尾(漁協2000、事業団3000)74mmを、森戸と一色海岸地先に放流しました。
- 5月17日以降、鎌倉ハマグリ部会で、今年初の鋤簾によるハマグリ分布特別採捕許可調査を実施しました。今年度から新たに加わった3名の若手漁業者を含め、7名で実施した所、これまでで最高の一人当たり10~29kgの漁がありました。鎌倉では、令和1年よりハマグリ増殖~新たな漁獲対象とすることに3年がかりで取組んできましたが、磯焼けの影響でサザエやアワビ等、海藻食性の貝類の減少が著しい中、新たな漁獲対象資源としての希望が持てるようになってきました。



新たな漁獲対象として鎌倉ハマグリ部会所属若手漁業者も多く参加しました

- 5月18日、各浜でハマグリ放流がありました。(公財)相模湾水産振興事業団が、平塚、茅ヶ崎、腰越、鎌倉、小坪地先に各9,400個放流。併せて平塚市漁協(4,700個)と、鎌倉ハマグリ部会(15,900個)は独自で購入した分も放流しました。今年は小型種苗で型が揃っていたので、多くの個数を放流することができました。



ハマグリ種苗放流の様子(平塚市漁協(左)と鎌倉ハマグリ部会(右))

- 5月18日、三和漁協上宮田支所は、みうら漁協南下浦支所金田湾販売所の協力のもと、金田漁港周辺の浅瀬に広がるアマモ場でアマモの花枝採集を行いました。かつて上宮田地区の地先にもたくさんのアマモが繁茂していましたが現在では見られなくなりました。支所ではかつてのような豊かなアマモ場を再生すべく今回採集した花枝から種子を得て、秋ごろに播種を行う予定です。



アマモの花枝採集の様子

- 5月19日、横須賀市東部漁協 横須賀支所の佳栄丸さんでは、4月に生産したワカメからシャーレに配偶体を採取し、この中から配偶体を個々に分離して、これらを来期の生産の種として用いる新しいワカメの種付け方法を試みています。この方法が確立されれば、ワカメの品種改良は大幅に進み、各漁業者が生産したいと考える特徴（メカブの大きさや葉部の形状など）を有するワカメを安定的に生産することが可能になるとともに、夏季の種系管理の省力化なども期待できます。また、水産技術センターでも、この方法により県内で生産されている貴重なワカメの系統を保存するとともに、高水温耐性などの優良形質を備えた品種の開発をすすめていく予定です。



母藻とするワカメの特徴を把握し、単離したフリー配偶体を観察中の様子

- 6月1日、江の島片瀬漁協と藤沢市漁協は、ハマグリ（ハマグリ）の種苗を放流しました（それぞれ、33,000個、52,000個）。また、6月9日には、水産技術センターで標識を施したハマグリ種苗900個を、藤沢市漁協が放流しました。



ハマグリ（ハマグリ）の種苗（6月1日）



標識を施したハマグリ種苗（6月9日）

- 6月13日、小坪漁協所属座間指導漁業士（ヴェルデ丸）に、テレビ朝日の取材がありました。当日は、座間さんが営む漁の様子や、当センター利用加工部指導の下育成しているキャベツウニについて取材がありました。今年は3,000個生産し7月上旬に出荷予定で、当日の様子は7月23日（土）9時30分からテレビ朝日「食彩の王国」のウニ特集で放映予定だそうです。

「食彩の王国」ホームページ <https://www.tv-asahi.co.jp/syokusai/backnumber/>

- 三和漁協上宮田支所では観光地びき網を実施しています。今は、マアジ、クロダイ、スズキ、マダイ、コノシロ、カタクチイワシ、アオリイカなどが入るようです。地びき網は10時頃から始まり魚をとりあげるまで30分程度かかりますが、入網した魚は持ち帰ることができます。大人40名以上の団体を随時受け付けていますのでご興味のある方は同支所にお問い合わせください（上宮田支所連絡先：090-2765-0024）。

●お知らせ

①漁業士申請 各関係機関にはすでに連絡しておりますが5月1日から7月31日まで令和4年度の漁業士認定に係る申請を受け付けています。申請希望がありましたら、最寄りの普及指導員に相談の上、申請されるようお願いいたします。

②「かながわ漁業就業促進センター」 5月10日から募集を始めた「かながわ漁業就業促進センター」(県のたより6月号掲載)は、6月14日時点で7件の問合せがございます。

漁業就労希望の方で受講をご希望の方は、県水産課で漁業就業オンラインセミナーを7月23日(土)14時からZoomによるオンライン開催を予定しておりますので、参考になさってください。

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/syugyou/r4semina.html>

<かながわ漁業就業促進センター研修生募集ページ/県水産課HP(募集期間7月31日まで)>

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/kanagawagyogyoshugyo.html>

○お問合せ先 JF 神奈川県漁連 指導部 ☎045-773-8877 MAIL : info@jf-kanagawa.jp

県水産課 水産企画グループ ☎045-210-4542

③江の島丸の調査・観測情報 当所漁業調査指導船「江の島丸」は東京湾、相模湾、伊豆諸島周辺海域で海洋観測や資源調査を行っています。その際に得られた水温、流向・流速について、水産技術センターホームページに随時アップしていくことといたしました。漁業者の皆様の操業の参考に御活用いただければ幸いです。 <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/mx7/enoshimamaru/tyousajyouhou.html>

④水産業のスマート化推進事業 漁業者やサービス事業者による生産性向上を目的とした機器等の導入を支援する事業です。漁業操業を高効率化(スマート)にする、同一認定機種を漁業者3軒以上が同時購入する際に活用できる可能性がございます。 https://www.mf21.or.jp/220614_smart.shtml

⑤漁業者の省エネ対策に係る事業(仮名) 本県では、国の「コロナ禍における『原油価格・物価高騰等総合緊急対策』」に対応し、県民生活や県内経済への影響を緩和するための対策を講ずることとなり、原油の価格高騰に伴う漁船の燃料費の負担増や、漁業者の漁船用省エネ型エンジンの導入に対する補助を実施することとなりました。なお、具体的な補助対象要件や申請手続き等の詳細な内容については、決まり次第、水産企画グループより御案内いたします。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/p7r/prs/r5178823.html>